

9 気候変動について

(1) 家庭で行っている温室効果ガスの排出削減対策

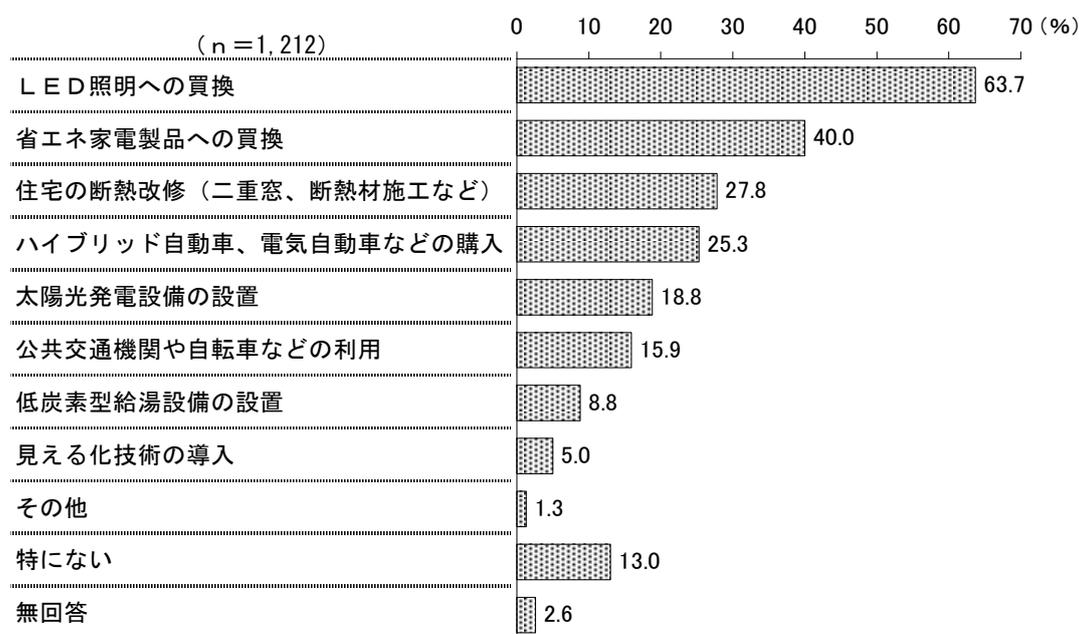
問25 近年、地球温暖化の進行が確認されており、温室効果ガスの排出削減対策が取り組まれている中で、私たち一人ひとりにおける取組も重要なものの一つとされています。あなたの家庭で行っている又は行ったことがあるものを、次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1, 212]

1	太陽光発電設備の設置	18.8%
2	住宅の断熱改修（二重窓、断熱材施工など）	27.8
3	低炭素型給湯設備（※1）の設置	8.8
4	省エネ家電製品への買換	40.0
5	LED照明への買換	63.7
6	見える化技術（※2）の導入	5.0
7	ハイブリッド自動車、電気自動車などの購入	25.3
8	公共交通機関や自転車などの利用	15.9
9	その他	1.3
10	特にない	13.0
	（無回答）	2.6

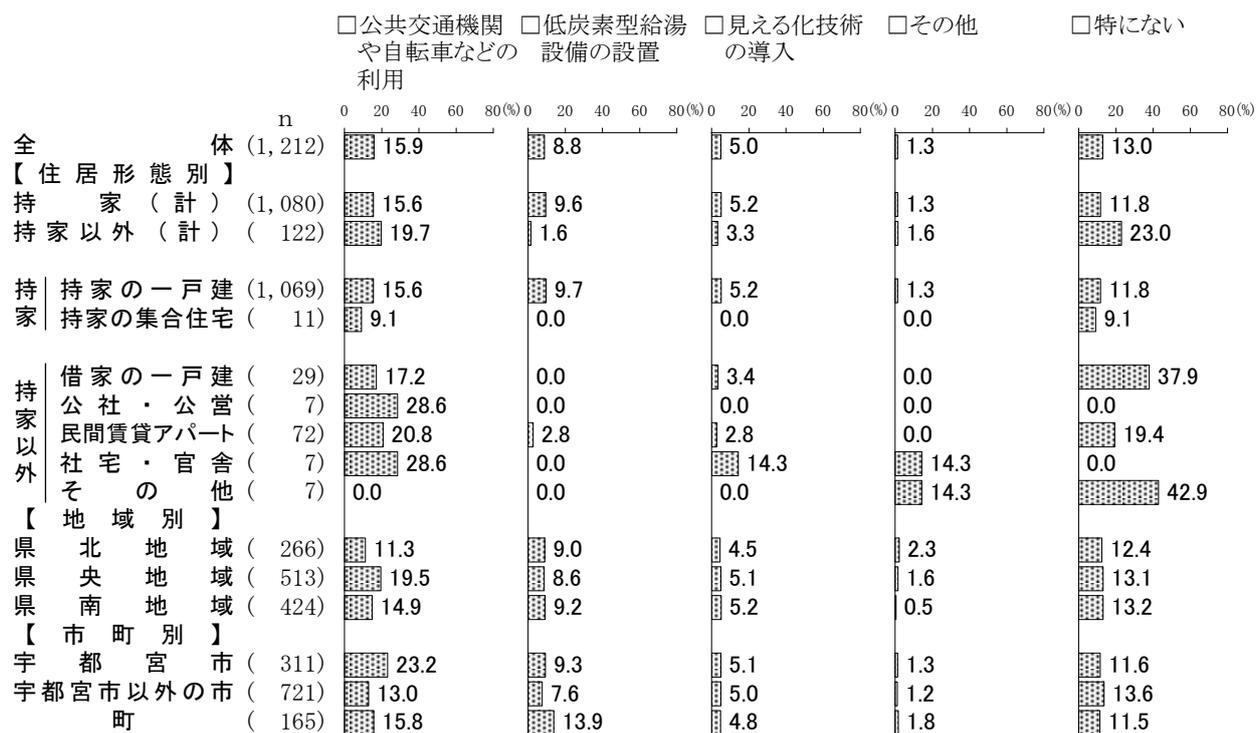
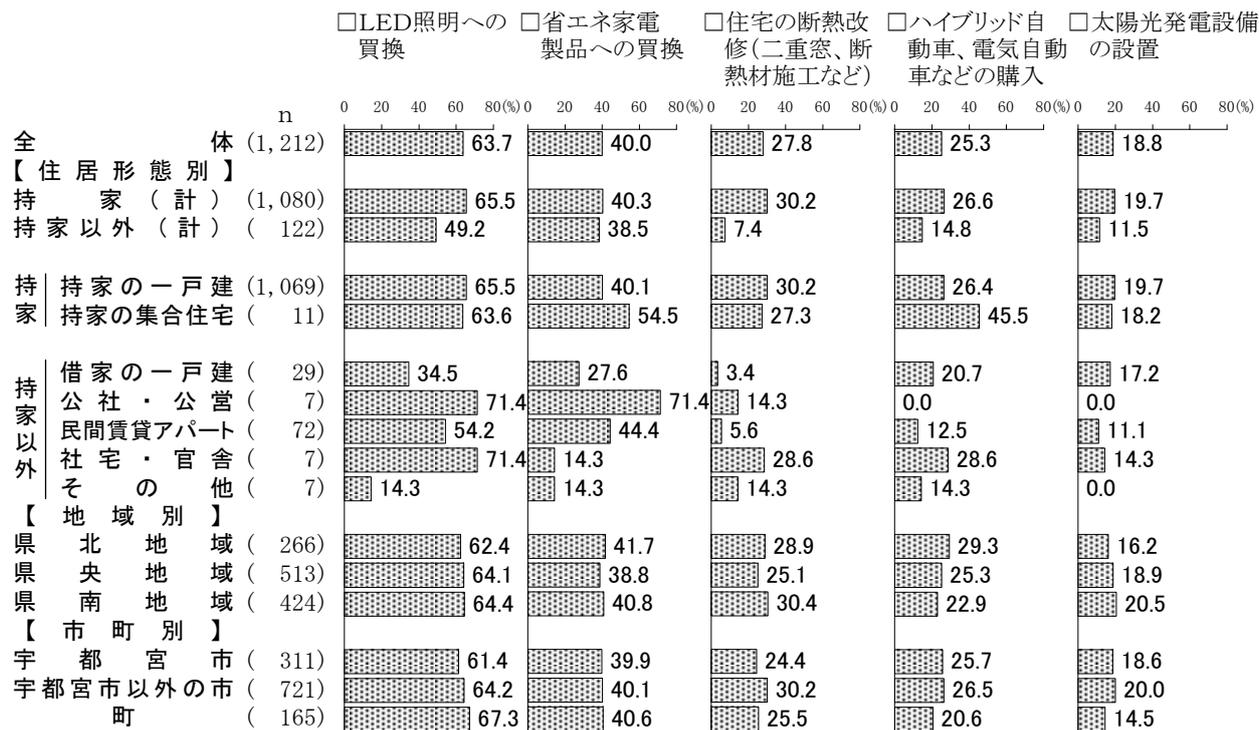
※1 低炭素型給湯設備とは、使用時や待機時のエネルギー消費量が少ない給湯器で、具体的にはヒートポンプ式給湯器や潜熱回収型給湯器などをいいます。

※2 見える化技術とは、電力使用量等をリアルタイムで表示するなど、家庭におけるエネルギー管理を支援するもので、具体的にはホームエネルギーマネジメントシステム（HEMS）やスマートメーターなどをいいます。



全体でみると、「LED照明への買換」（63.7%）が6割を超えて最も高く、次いで「省エネ家電製品への買換」（40.0%）、「住宅の断熱改修（二重窓、断熱材施工など）」（27.8%）、「ハイブリッド自動車、電気自動車などの購入」（25.3%）、「太陽光発電設備の設置」（18.8%）の順となっている。

[住居形態別・地域別・市町別]



住居形態別でみると、「住宅の断熱改修（二重窓、断熱材施工など）」では〈持家（計）〉（30.2%）が〈持家以外（計）〉（7.4%）より22.8ポイント高くなっている。「LED照明への買換」では〈持家（計）〉（65.5%）が〈持家以外（計）〉（49.2%）より16.3ポイント高くなっている。「ハイブリッド自動車、電気自動車などの購入」では〈持家（計）〉（26.6%）が〈持家以外（計）〉（14.8%）より11.8ポイント高くなっている。

地域別でみると、「公共交通機関や自転車などの利用」では〈県央地域〉が19.5%となっている。

市町別でみると、「住宅の断熱改修（二重窓、断熱材施工など）」では〈宇都宮市以外の市〉が30.2%と高くなっている。「公共交通機関や自転車などの利用」では〈宇都宮市〉が23.2%と高くなっている。

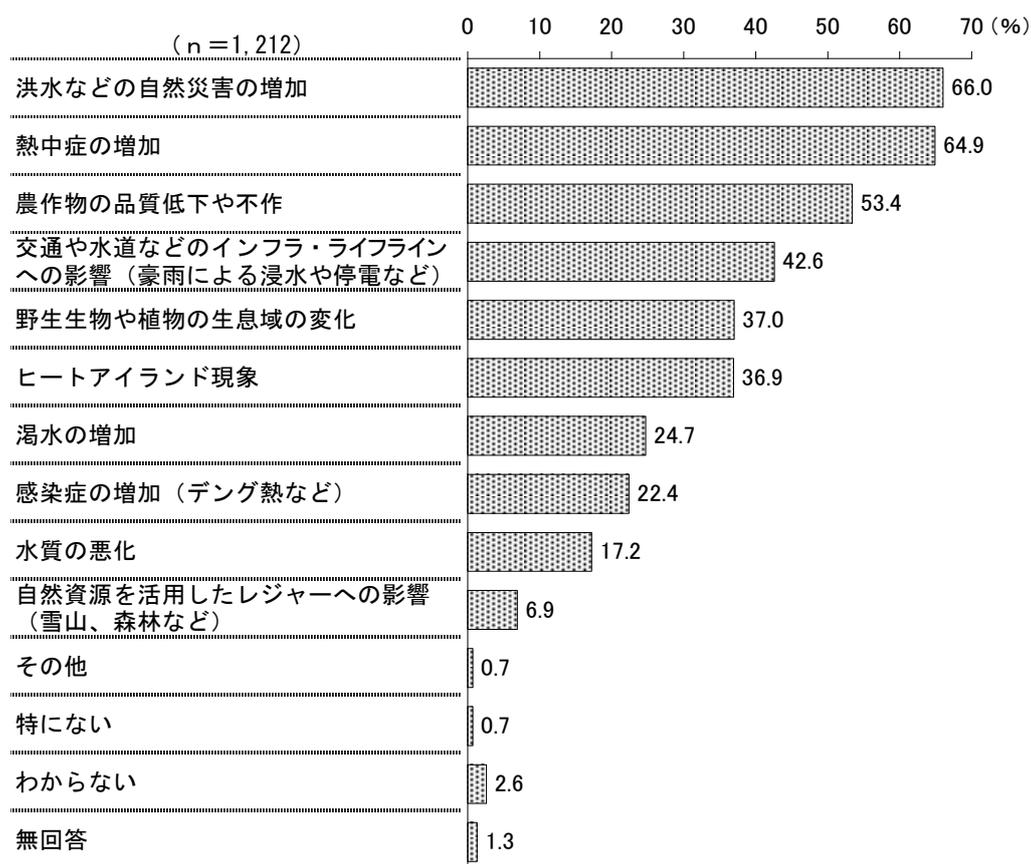
(2) 気候変動による影響を感じること

問26 気温の上昇のみならず、降水量の変化などの「気候変動」が確認されており、今後、その影響はさらに深刻化するおそれがあります。

あなたが感じる気候変動による影響は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

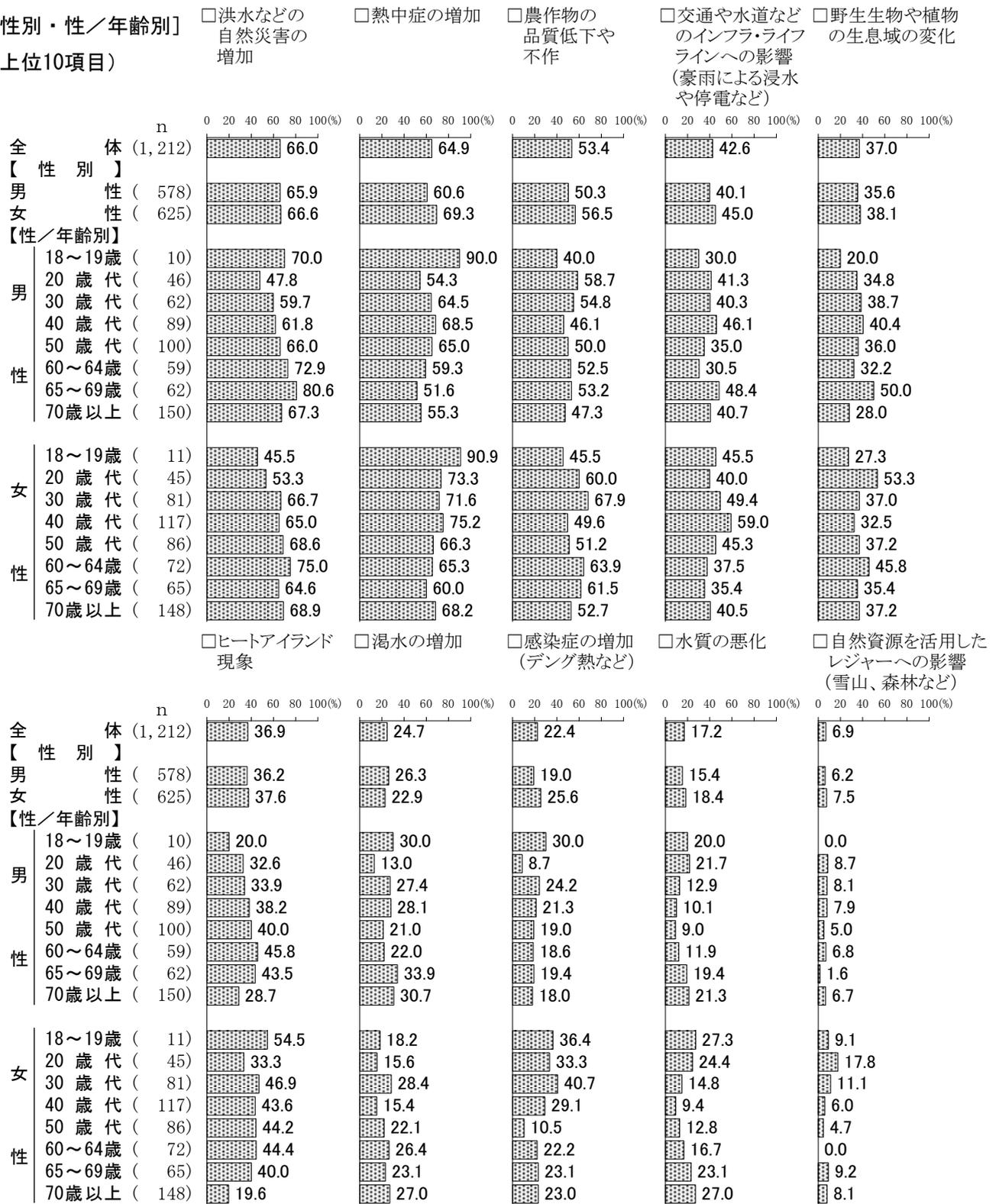
[n = 1, 212]

1	農作物の品質低下や不作	53.4%	9	交通や水道などのインフラ・ライフラインへの影響(豪雨による浸水や停電など)	42.6%
2	水質の悪化	17.2	10	ヒートアイランド現象	36.9
3	渇水の増加	24.7	11	その他	0.7
4	野生生物や植物の生息域の変化	37.0	12	特になし	0.7
5	洪水などの自然災害の増加	66.0	13	わからない	2.6
6	熱中症の増加	64.9		(無回答)	1.3
7	感染症の増加(デング熱など)	22.4			
8	自然資源を活用したレジャーへの影響(雪山、森林など)	6.9			



全体で見ると、「洪水などの自然災害の増加」(66.0%)と「熱中症の増加」(64.9%)がともに6割半ばで高く、次いで「農作物の品質低下や不作」(53.4%)、「交通や水道などのインフラ・ライフラインへの影響(豪雨による浸水や停電など)」(42.6%)、「野生生物や植物の生息域の変化」(37.0%)、「ヒートアイランド現象」(36.9%)の順となっている。

[性別・性／年齢別]
(上位10項目)



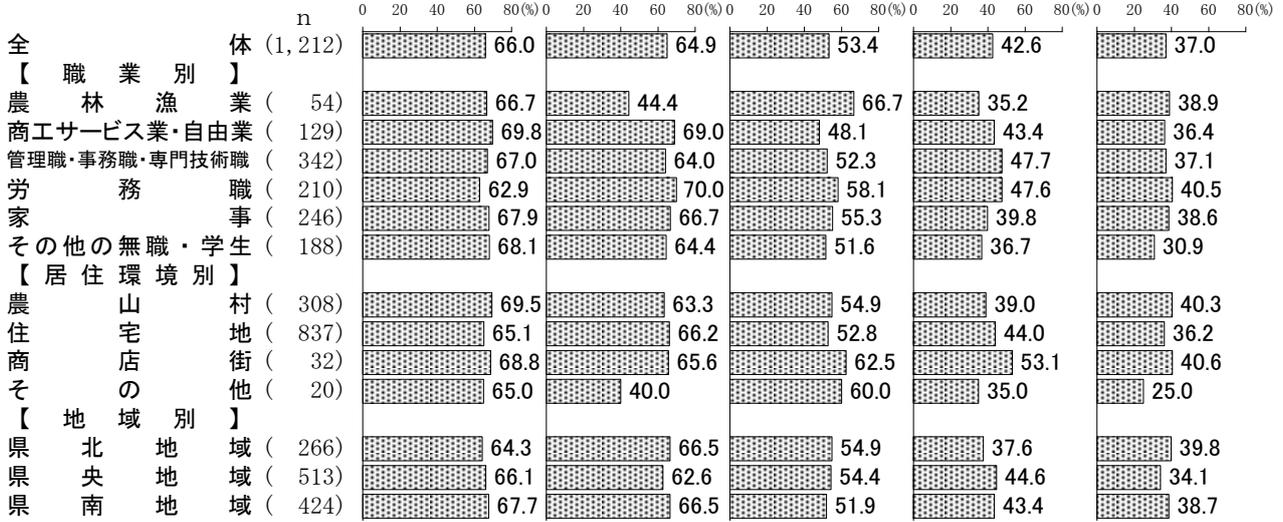
性別でみると、「熱中症の増加」では〈女性〉(69.3%)が〈男性〉(60.6%)より8.7ポイント高くなっている。「感染症の増加(デング熱など)」では〈女性〉(25.6%)が〈男性〉(19.0%)より6.6ポイント高くなっている。「農作物の品質低下や不作」では〈女性〉(56.5%)が〈男性〉(50.3%)より6.2ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「洪水などの自然災害の増加」では〈男性65～69歳〉が80.6%と高くなっている。「熱中症の増加」では〈女性40歳代〉が75.2%と高くなっている。「農作物の品質低下や不作」では〈女性30歳代〉が67.9%と高くなっている。「交通や水道などのインフラ・ライフラインへの影響(豪雨による浸水や停電など)」では〈女性40歳代〉が59.0%と高くなっている。「野生生物や植物の生息域の変化」では〈女性20歳代〉が53.3%、〈男性65～69歳〉が50.0%と高くなっている。

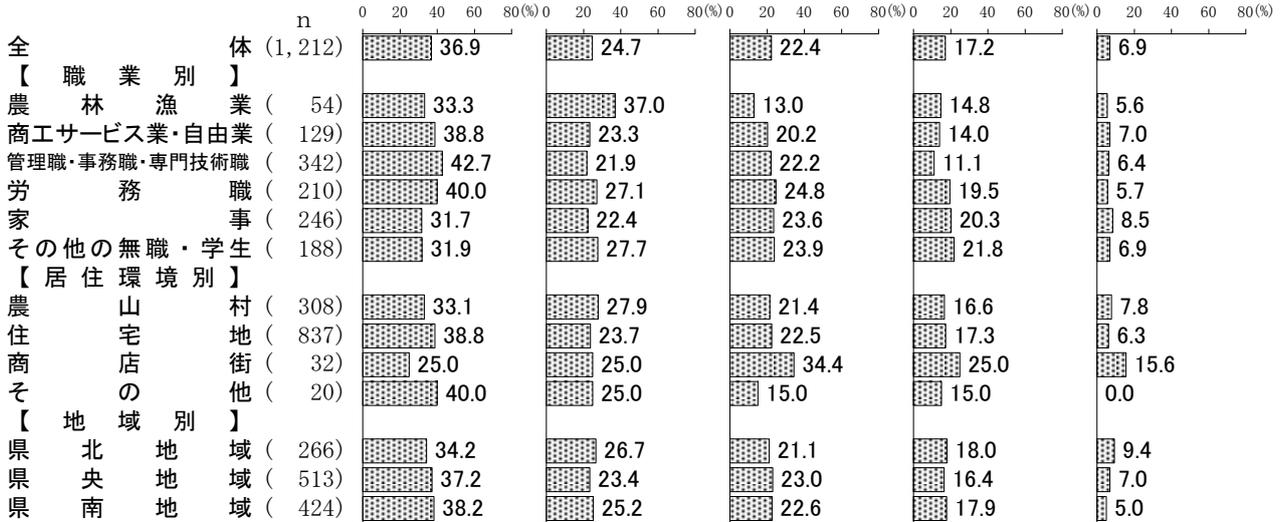
[職業別・居住環境別・地域別]

(上位10項目)

□洪水などの自然災害の増加 □熱中症の増加 □農作物の品質低下や不作 □交通や水道などのインフラ・ライフラインへの影響(豪雨による浸水や停電など) □野生生物や植物の生息域の変化



□ヒートアイランド現象 □熱水の増加 □感染症の増加(デング熱など) □水質の悪化 □自然資源を活用したレジャーへの影響(雪山、森林など)



職業別でみると、「農作物の品質低下や不作」では〈農林漁業〉が66.7%と高くなっている。「熱水の増加」では〈農林漁業〉が37.0%と高くなっている。

居住環境別でみると、「農作物の品質低下や不作」では〈商店街〉が62.5%と高くなっている。「交通や水道などのインフラ・ライフラインへの影響(豪雨による浸水や停電など)」では〈商店街〉が53.1%と高くなっている。「ヒートアイランド現象」では〈住宅地〉が38.8%と高くなっている。「感染症の増加(デング熱など)」では〈商店街〉が34.4%と高くなっている。

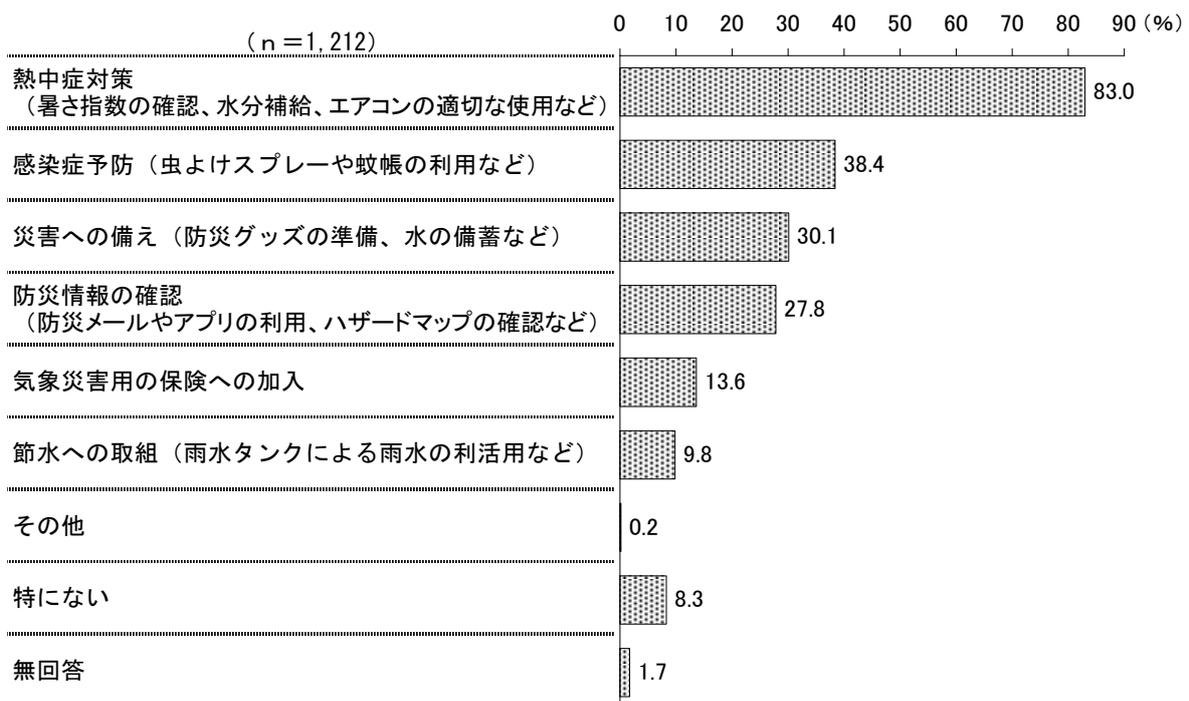
地域別でみると、「交通や水道などのインフラ・ライフラインへの影響(豪雨による浸水や停電など)」では〈県央地域〉が44.6%、〈県南地域〉が43.4%となっており、〈県北地域〉(37.6%)に比べて高くなっている。

(3) 気候変動の影響による被害を回避・軽減するために実践していること

問27 気候変動の影響による被害を回避・軽減するために、様々な対策（適応策）が求められています。あなたの家庭で実践していることはありますか。次の中からいくつでも選んでください。

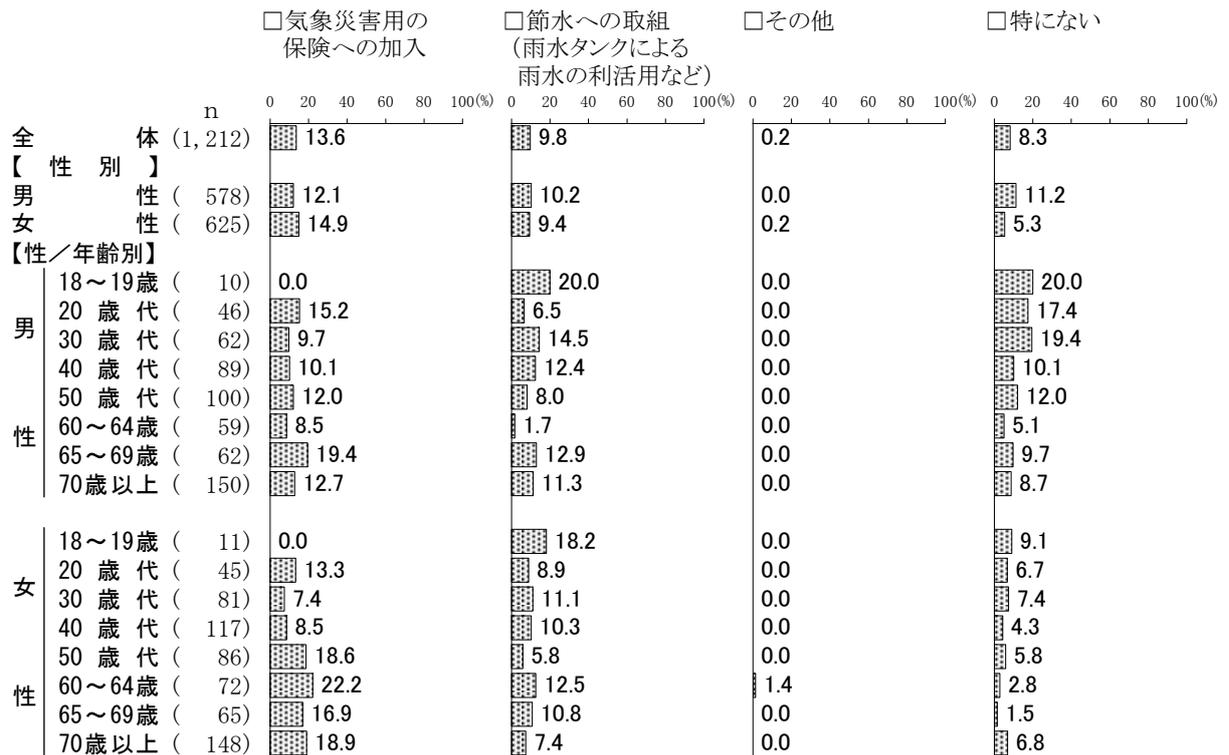
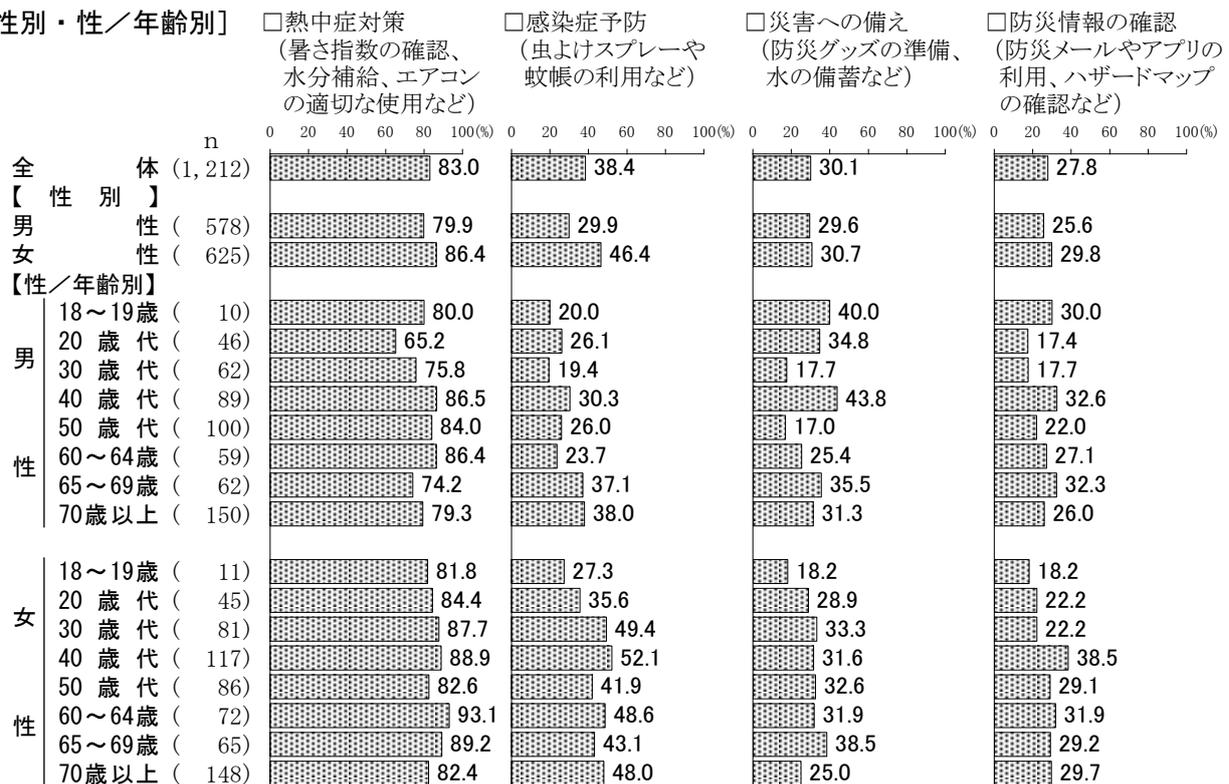
[n=1,212]

1 熱中症対策（暑さ指数の確認、水分補給、エアコンの適切な使用など）	83.0%
2 防災情報の確認（防災メールやアプリの利用、ハザードマップの確認など）	27.8
3 災害への備え（防災グッズの準備、水の備蓄など）	30.1
4 節水への取組（雨水タンクによる雨水の利活用など）	9.8
5 感染症予防（虫よけスプレーや蚊帳の利用など）	38.4
6 気象災害用の保険への加入	13.6
7 その他	0.2
8 特にない	8.3
(無回答)	1.7



全体でみると、「熱中症対策（暑さ指数の確認、水分補給、エアコンの適切な使用など）」（以下『熱中症対策』という。）（83.0%）が8割を超えて最も高く、次いで「感染症予防（虫よけスプレーや蚊帳の利用など）」（以下『感染症予防』という。）（38.4%）、「災害への備え（防災グッズの準備、水の備蓄など）」（以下『災害への備え』という。）（30.1%）、「防災情報の確認（防災メールやアプリの利用、ハザードマップの確認など）」（以下『防災情報の確認』という。）（27.8%）、「気象災害用の保険への加入」（13.6%）の順となっている。

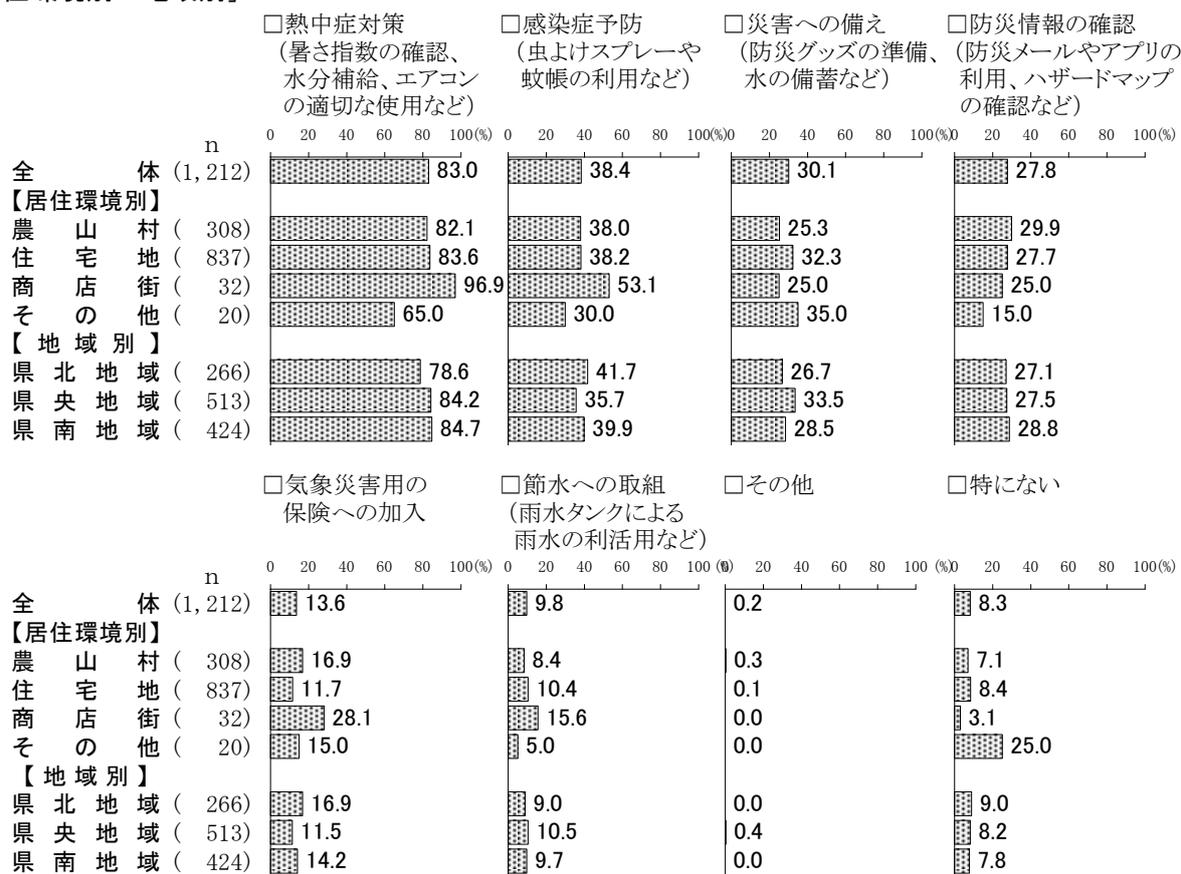
[性別・性/年齢別]



性別でみると、『感染症予防』では〈女性〉(46.4%)が〈男性〉(29.9%)より16.5ポイント高くなっている。『熱中症対策』では〈女性〉(86.4%)が〈男性〉(79.9%)より6.5ポイント高くなっている。

性/年齢別でみると、『熱中症対策』では〈女性60~64歳〉が93.1%と高くなっている。『感染症予防』では〈女性40歳代〉が52.1%、〈女性30歳代〉が49.4%、〈女性60~64歳〉が48.6%、〈女性70歳以上〉が48.0%と高くなっている。『防災情報の確認』では〈女性40歳代〉が38.5%と高くなっている。

[居住環境別・地域別]



居住環境別で見ると、『熱中症対策』では〈商店街〉が96.9%と高くなっている。『感染症予防』では〈商店街〉が53.1%と高くなっている。

地域別で見ると、『感染症予防』では〈県北地域〉が41.7%と高くなっている。『災害への備え』では〈県央地域〉が33.5%と高くなっている。

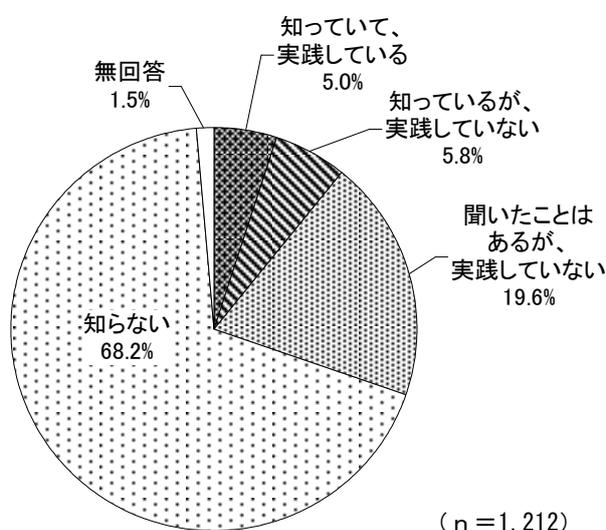
(4) 「COOL CHOICE」の取組の認知度

問28 県では、家庭部門における温室効果ガスの排出削減に向け、「COOL CHOICE（クールチョイス）」（※）を推進しています。あなたは、「COOL CHOICE（クールチョイス）」の取組を知っていますか。次の中から1つ選んでください。

※「COOL CHOICE（クールチョイス）」とは、国が推進する国民運動で、省エネ・低炭素型の「製品」、「サービス」、「行動」などの温暖化対策に資する「賢い選択」を促す取組をいいます。

[n=1,212]

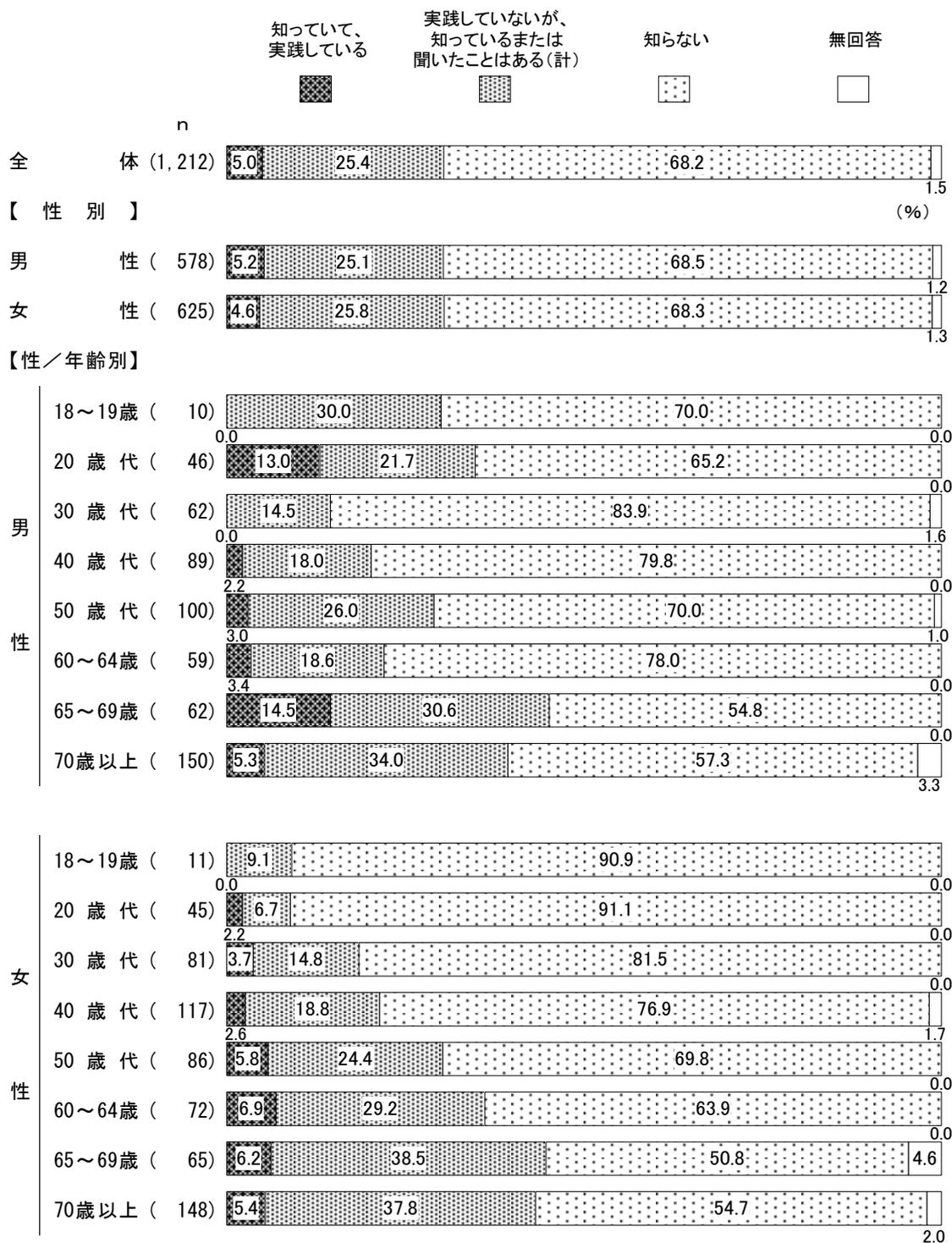
1	知っていて、実践している	5.0%	3	聞いたことはあるが、実践していない	19.6%
2	知っているが、実践していない	5.8	4	知らない	68.2
				(無回答)	1.5



全体で見ると、「知っていて、実践している」(5.0%)は1割に満たない。「知っているが、実践していない」(5.8%)と「聞いたことはあるが、実践していない」(19.6%)の2つを合わせた『実践していないが、知っているまたは聞いたことはある』(25.4%)は2割半ばで、「知らない」(68.2%)は7割近くとなっている。

なお、このあとの図表では、「知っているが、実践していない」と「聞いたことはあるが、実践していない」の選択肢の比率の代わりに、この2つの選択肢の比率を合わせた『実践していないが、知っているまたは聞いたことはある』の比率を示す。

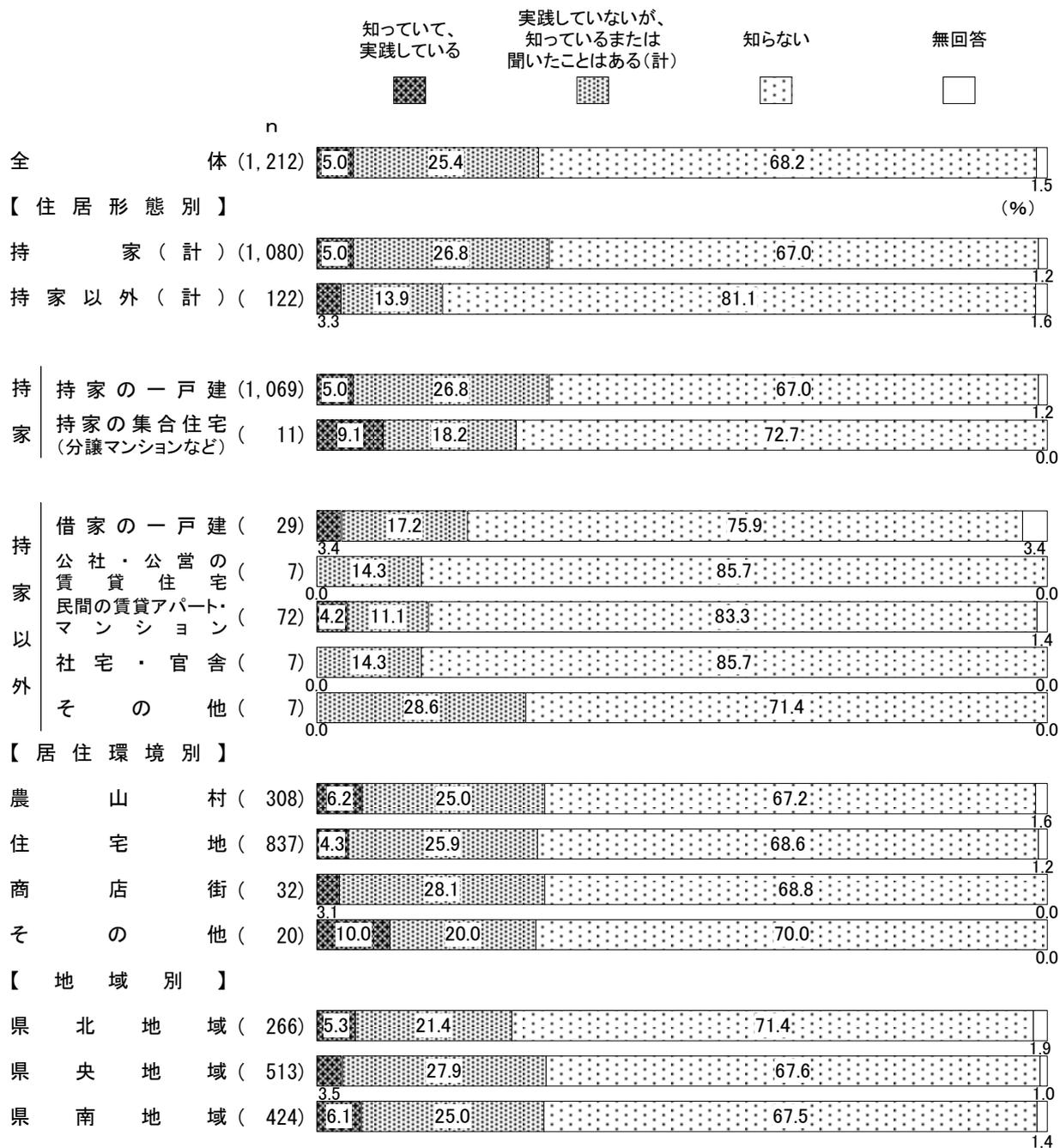
[性別・性／年齢別]



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、「知っていて、実践している」では〈男性65～69歳〉が14.5%、〈男性20歳代〉が13.0%となっている。『実践していないが、知っているまたは聞いたことはある』では〈女性65～69歳〉が38.5%、〈女性70歳以上〉が37.8%と高くなっている。「知らない」では〈女性20歳代〉が91.1%、〈男性30歳代〉が83.9%、〈女性30歳代〉が81.5%と高くなっている。

[住居形態別・居住環境別・地域別]



住居形態別でみると、『実践していないが、知っているまたは聞いたことはある』では〈持家(計)〉(26.8%)が〈持家以外(計)〉(13.9%)より12.9ポイント高くなっている。「知らない」では〈持家以外(計)〉(81.1%)が〈持家(計)〉(67.0%)より14.1ポイント高くなっている。

居住環境別でみると、『実践していないが、知っているまたは聞いたことはある』では〈商店街〉が28.1%と高くなっている。

地域別でみると、『実践していないが、知っているまたは聞いたことはある』では〈県央地域〉が27.9%と高くなっている。「知らない」では〈県北地域〉が71.4%と高くなっている。